

◆ 実戦問題 29 ◆

(次の文章は、権大納言殿の息子である若君についての記述である。)

やうやう大人び給ふまに、若君は、あさましうもの恥ぢをAし給ひて、女房などにB、少し御前遠きには見え給ふこともなく、父の殿をもうとく恥づかしくAおぼして、やうやう御文習はし、(1)さるべきことどもなど教へ聞こえ給へど、おぼしもかけず、ただ「いと恥づかし」とAおぼして、御帳の内にのみうづもれ入りつつ、絵かき、*雛遊び、*貝覆ひなどし給ふを、殿はいと(2)あさましきことにおぼしのたまはせて、*常にさいなみ給へば、*はてはては涙をCこぼして、「あさましうつまし」とAおぼしつつ、ただ母上・御乳母、さらぬはむげに小さき*童などにぞ見え給ふ。さらぬ女房などの御前へも参れば、御*几帳に(3)*まつはれて、「恥づかし、いみじ」とAおぼしたるを、いとめづらかなることに(4)おぼし嘆く。

中央大(法)
関西大(法)

出題文

出典

『とりかへばや物語』巻第一

『とりかへばや物語』は、十一世紀後半成立の物語。作者は未詳。兄妹が男女逆の姿で育てられるが、やがてもとの姿に戻って幸福に結婚するという話。平安後期の退廃的傾向が見られるとされる。

*御前⇒貴人の前。ここは、若君の御前のことをいっている。
*御帳⇒貴人の御座所にある帳または帳台をいう。
*雛遊び⇒紙で作った小さい人形。幼女のおもちゃ。
*貝覆ひ⇒「貝合はせ」ともいう。貝殻を使って遊ぶ女子の遊戲。貝殻の裏側に美しい絵や和歌をかくて、装飾をほどこした貝で遊ぶ。
*常にさいなみ給へば⇒いつも叱りなさるので。
*はてはては⇒あげくのはてに

設問

問1 空欄A～Cにあてはまる助詞を、次の中からそれぞれ一つずつ選べ(同じ記号には同じ語が入る)。

- ①こそ ②だに ③など ④さへ ⑤のみ

問2 傍線a～dの読み方を現代仮名遣いの平仮名で記せ。

問3 傍線(1)について、

(i)誰が、誰に教えるのか、記せ。

(ii)どのようなことを教えるのか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

- ①和歌などの貴族としてぜひ身につけるべき教養
②漢詩文などの男の子としてのしかるべき教養
③貝覆ひなどの女の子としてふさわしい遊び
④貴族として必要な男らしい毅然とした態度

問4 傍線(2)について、

- (i)「あさましきこと」の意味として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。
①不都合なこと ②気がかりなこと ③不愉快なこと
④しかたがないこと ⑤驚きあきれること

(ii)「殿」は、誰の、どのような様子を「あさましきこと」と思ったのか。本文に即して四十字以内で説明せよ。

問5 傍線(3)(4)の主語を文中の語で答えよ。

は。

*童⇒召し使いの子ども。

*几帳⇒柱を二本立て、上部に横木を渡して、帷子(かたびら)をかけたもの。室内に立てて、隔てとした。

*まつはれて⇒からみついて。

単語チェック

- ☑やうやう 副
☑あさまし 形 シク
☑おぼす 動 サ四
☑文 名
☑むげなり 形動 ナリ